

(4) 炭酸塩 本品 1.0 g に水 5 mL を加えて振り混ぜ、直ちに塩酸 2 mL を加えるとき、液は泡立たない。

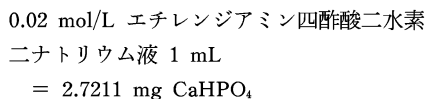
(5) 重金属 本品 0.65 g に水 5 mL 及び希塩酸 5 mL を加え、加温して溶かし、冷後、わずかに沈殿を生じるまでアンモニア試液を加えた後、少量の希塩酸を滴加して沈殿を溶かし、pH 3.5 の塩酸・酢酸アンモニウム緩衝液 10 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.0 mL に pH 3.5 の塩酸・酢酸アンモニウム緩衝液 10 mL 及び水を加えて 50 mL とする (31 ppm 以下)。

(6) バリウム 本品 0.5 g に水 10 mL を加えて加熱し、かき混ぜながら塩酸 1 mL を滴加して溶かし、必要ならばろ過し、硫酸カリウム試液 2 mL を加え、10 分間放置するとき、液は混濁しない。

(7) ヒ素 本品 1.0 g を希塩酸 5 mL に溶かし、これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

乾燥減量 1.0 % 以下 (1 g, 200 °C, 3 時間)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.4 g を精密に量り、希塩酸 12 mL に溶かし、水を加えて正確に 200 mL とする。この液 20 mL を正確に量り、これに 0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液 25 mL を正確に加え、水 50 mL 及び pH 10.7 のアンモニア・塩化アンモニウム緩衝液 5 mL を加え、過量のエチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウムを 0.02 mol/L 酢酸亜鉛液で滴定する (指示薬: エリオクロムブラック T・塩化ナトリウム指示薬 0.025 g)。同様の方法で空試験を行う。



貯法 容器 密閉容器。

リン酸水素ナトリウム

Dibasic Sodium Phosphate

リン酸ナトリウム

$\text{Na}_2\text{HPO}_4 \cdot 12\text{H}_2\text{O}$: 358.14

本品を乾燥したものは定量するとき、リン酸水素ナトリウム (Na_2HPO_4 : 141.96) 98.0 % 以上を含む。

性状 本品は無色又は白色の結晶で、においはない。

本品は水に溶けやすく、エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は温乾燥空气中で風解する。

確認試験 本品の水溶液 (1 → 10) はナトリウム塩の定性反応 (1) 及び (2) 並びにリン酸塩の定性反応を呈する。

pH 本品 1.0 g を水 50 mL に溶かした液の pH は 9.0 ~ 9.4 である。

純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 g を水 20 mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 塩化物 本品 1.0 g に希硝酸 7 mL 及び水を加えて溶かし、50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比

較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.40 mL を加える (0.014 % 以下)。

(3) 硫酸塩 本品 0.5 g に希塩酸 2 mL 及び水を加えて溶かし、50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液には 0.005 mol/L 硫酸 0.40 mL を加える (0.038 % 以下)。

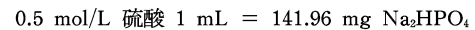
(4) 炭酸塩 本品 2.0 g に水 5 mL を加え煮沸し、冷後、塩酸 2 mL を加えるとき、液は泡立たない。

(5) 重金属 本品 2.0 g に酢酸 (31) 4 mL 及び水を加えて溶かし、50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.0 mL に希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする (10 ppm 以下)。

(6) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 1 法により検液を調整し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

乾燥減量 57.0 ~ 61.0 % (10 g, 初め 40 °C で 3 時間、次に 105 °C で 5 時間乾燥する)。

定量法 本品を乾燥し、その約 3 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、15 °C に保ち、0.5 mol/L 硫酸で滴定する (指示薬: メチルオレンジ・キシレンシアノール FF 試液 3 ~ 4 滴)。ただし、滴定の終点は液の色が緑色から暗い緑みの赤紫色に変わるときとする。



貯法 容器 気密容器。

リン酸二水素カルシウム

Monobasic Calcium Phosphate

第一リン酸カルシウム

$\text{Ca}(\text{H}_2\text{PO}_4)_2 \cdot \text{H}_2\text{O}$: 252.07

本品を乾燥したものは定量するとき、リン酸二水素カルシウム [$\text{Ca}(\text{H}_2\text{PO}_4)_2 \cdot \text{H}_2\text{O}$] 90.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。

本品は水にやや溶けにくく、エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は希塩酸又は希硝酸に溶ける。

本品はやや潮解性である。

確認試験

(1) 本品 0.1 g に薄めた塩酸 (1 → 6) 10 mL を加え、加温して溶かし、アンモニア試液 2.5 mL を振り混ぜながら滴加し、シュウ酸アンモニウム試液 5 mL を加えるとき、白色の沈殿を生じる。

(2) 本品 0.1 g を希硝酸 5 mL に溶かし、70 °C で 1 ~ 2 分間加温し、七モリブデン酸六アンモニウム試液 2 mL を加えるとき、黄色の沈殿を生じる。

純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 g に水 19 mL 及び薄めた塩酸 (3 → 4) 2 mL を加え、水浴中で時々振り混ぜ 5 分間加熱するとき、液は無色澄明である。

(2) リン酸水素塩及び酸 本品 1.0 g に水 3 mL を加えてすり混ぜ、更に水 100 mL を加え、メチルオレンジ試液

1 滴を加えるとき、液は赤色を呈する。更に 1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1.0 mL を加えるとき、液は黄色に変わる。

(3) 塩化物 本品 1.0 g に水 20 mL 及び希硝酸 12 mL を加えて溶かし、水を加えて 100 mL とし、必要ならばろ過する。この液 50 mL を検液とし、試験を行う。比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.25 mL を加える (0.018 % 以下)。

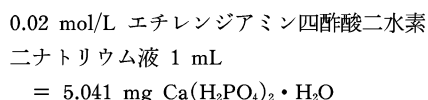
(4) 硫酸塩 本品 1.0 g に水 20 mL 及び塩酸 1 mL を加えて溶かし、水を加えて 100 mL とし、必要ならばろ過する。この液 50 mL を検液とし、試験を行う。比較液には 0.005 mol/L 硫酸 0.50 mL を加える (0.048 % 以下)。

(5) 重金属 本品 0.65 g に水 5 mL 及び希塩酸 5 mL を加え、加温して溶かし、冷後、わずかに沈殿を生じるまでアンモニア試液を加えた後、少量の希塩酸を滴加して沈殿を溶かし、pH 3.5 の塩酸・酢酸アンモニウム緩衝液 10 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.0 mL に pH 3.5 の塩酸・酢酸アンモニウム緩衝液 10 mL 及び水を加えて 50 mL とする (31 ppm 以下)。

(6) ヒ素 本品 1.0 g を希塩酸 5 mL に溶かし、これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

乾燥減量 3.0 % 以下 (1 g, シリカゲル, 24 時間)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.4 g を精密に量り、希塩酸 3 mL に溶かし、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 20 mL を正確に量り、これに 0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液 25 mL を正確に加え、水 50 mL 及び pH 10.7 のアンモニア・塩化アンモニウム緩衝液 5 mL を加え、過量のエチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウムを 0.02 mol/L 酢酸亜鉛液で滴定する (指示薬: エリオクロムブラック T・塩化ナトリウム指示薬 0.025 g)。同様の方法で空試験を行う。



貯法 容器 気密容器。

レンギョウ

Forsythia Fruit

FORSYTHIAE FRUCTUS

連翹

本品はレンギョウ *Forsythia suspensa* Vahl 又はシナレンギョウ *Forsythia viridissima* Lindley (*Oleaceae*) の果実である。

性状 本品はさく果で、卵円形～長卵円形を呈し、長さ 1.5～2.5 cm, 幅 0.5～1 cm である。先端はとがり、基部に果柄を残存するものがある。外面は淡褐色～暗褐色で淡灰色の小隆起点が散在し、2 本の縦みぞがある。縦みぞに沿って裂開したものは先端がそり返る。裂開した果皮の内面は黄褐色で、中央に隔壁がある。種子は細長い長円形で、長さ 0.5～0.7 cm, 通例、翼がある。

本品は弱いにおいがあり、味はない。

確認試験

(1) 本品の粉末 0.2 g に無水酢酸 2 mL を加えてよく振り混ぜ、2 分間放置した後、ろ過する。ろ液 1 mL に硫酸 0.5 mL を穏やかに加えるとき、境界面は赤紫色を呈する。

(2) 本品の粉末 1 g にメタノール 10 mL を加え、水浴上で 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液 5 mL にリボン状のマグネシウム 0.1 g 及び塩酸 1 mL を加えて放置するとき、液は淡赤色～黄赤色を呈する。

純度試験

(1) 小枝 本品は小枝 5.0 % 以上を含まない。

(2) 異物 本品は小枝以外の異物 1.0 % 以上を含まない。

灰分 5.0 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 10.0 % 以上。

ロジン

Rosin

RESINA PINI

コロホニウム

本品は *Pinus* 属諸種植物 (*Pinaceae*) の分泌物から精油を除いて得た樹脂である。

性状 本品は淡黄色～淡褐色、ガラスよう透明の砕きやすい塊で、その外面はしばしば黄色の粉末で覆われ、破砕面は貝がら状でつやがある。

本品は弱いにおいがある。

本品は融解しやすく、黄褐色の炎を発生して燃える。

本品はエタノール (95)、酢酸 (100) 又はジエチルエーテルに溶けやすい。

本品のエタノール (95) 溶液は酸性である。

酸価 150～177

灰分 0.1 % 以下。

ロートコン

Scopolia Rhizome

SCOPOLIAE RHIZOMA

本品はハシリドコロ *Scopolia japonica* Maximowicz, *Scopolia carniolica* Jacquin 又は *Scopolia parviflora* Nakai (*Solanaceae*) の根茎及び根である。

本品を乾燥したものは定量するとき、総アルカロイド〔ヒヨスチアミン ($\text{C}_{17}\text{H}_{23}\text{NO}_3$: 289.37) 及びスコポラミン ($\text{C}_{17}\text{H}_{21}\text{NO}_4$: 303.35)] 0.29 % 以上を含む。

性状 本品は主として不規則に分枝する多少曲がった根茎からなり、長さ約 15 cm, 径 3 cm に達し、ときには縦割されている。外面は灰褐色でしわがあり、ところどころくびれて分節し、先端にはまれに残茎がある。各節の上面には茎の跡があり、側面及び下面には根又はその残茎がある。折面は粒状で灰白色～淡褐色を呈し皮部の色はやややすい。

本品は特異なにおいがあり、味は甘く、後にわずかに苦い。

本品の横切片を鏡検するとき、木部には放射組織間に木部内師管を伴う道管群が階段状に配列する。柔細胞中にはでんぷん粒、ときにシュウ酸カルシウムの砂晶を含む。